

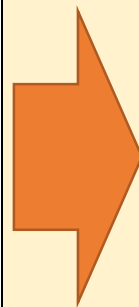
令和7年度 実績報告

【 菊かおる園地域包括支援センター 】

資料 2 - 1

【令和7年度 実績報告】

- ・ 高齢総合相談センターの相談支援の充実については、区民ひろば（36回）・つながるサロンやホッと菊食堂等（23回）・町会の敬老会等での出前講座を実施し、センターの役割と必要な情報の周知・地域全体での見守りの強化を図った。また、困難性の高いケースの対応については、高齢者福祉課の三相談事業やサポートとしまの専門相談につなげ（昨年度19ケース）、継続的な適切な支援が行えるよう努めた。重層的な支援が必要な世帯について、昨年度は4ケースにおいて保健所や障害福祉課と協働し、世帯への支援体制が作れるよう努めた。
- ・ 2層 SC との連携を強化し様々な事業で協働した。ささえあい通信を年3回協働で発行し配布した。地区懇談会では企画の段階より参加いただき活発な意見をいただいた。また、介護者カフェうえるかむ・ホッと菊食堂・巣鴨アップサイクルプロジェクトなどを毎月一共同開催した。また2層 SC・CSW と共に終活講座や新しく立て直された都営住宅で出前講座を行った。2層 SC や CSW と協働することで、各事業に相乗効果をもたらしている。
- ・ 介護支援専門員研修として、災害 BCP 訓練を行った。13事業所約40名が参加し、大地震想定で発災直後から安否確認をして報告するところまでの流れをグループに分かれて実施し、実際の動きを確認することができた。地域の事業所と一緒に確認することで、より良い訓練となった。
- ・ 地区懇談会（2回開催）では特殊詐欺被害を防ぐために、それぞれの職種・立場でできることについて検討した。巣鴨警察からの助言もいただき、地域の防犯・犯罪情報を共有するツールとして、警視庁のアプリ・デジポリスについて取り上げ、参加者が実際にダウンロードして使ってみた。また圏域のサロン等を訪問し、デジポリスを含めた特殊詐欺の出前講座も実施し、地域住民への特殊詐欺被害防止の啓発を行った。



【実績への自己評価】

○力を入れた点

- ・ 認知症になっても安心して暮らせる体制整備について、圏域内に本人ミーティングを立ち上げた。プレ開催に先立ち、地域の医師会の先生方数名にヒアリングをさせていただき、MCI 領域の方の「場」の提供が必要であることがわかった。ヒアリングを経て、3月にプレ開催を実施し、4名の当事者の方と、家族や支援者の参加があった。当事者と支援者の垣根を越えてテーマに沿った話し合いができた。また、認知症サポーター養成講座は2回、認知症支援講座は1回実施した。加えてオレンジドクターと連携し、相談や事例検討、認知症に関する講座の依頼を行った。介護者カフェうえるかむを2層 SC とともに6月より毎月1回開催した。
- ・ 介護予防のための総合事業の推進については、短期集中訪問・通所サービスや、元気はつらつ訪問を合わせて45ケースで活用させていただき、地域とのつながりやその人らしい生活を継続できるように支援を行った。また、高齢者の社会参加の推進・住民主体の通いの場の拡大については、ぬいものクラブの月2回の開催、ホッと菊食堂、新規立ち上げの巣鴨アップサイクルプロジェクトを実施した。高齢者が継続的に介護予防の取り組みを行えるよう支援した。

○目標までに至らなかった点

- ・ 社会的交流が少ない方への情報周知については、まだつながりの薄い町会等があるので、さらなる連携を図っていきたい。

令和8年度 事業計画

【 菊かおる園地域包括支援センター 】

重点目標

- ① 認知症になっても、安心して自分らしく暮らせる地域づくり、また認知症介護を継続できる地域づくり。
- ② 介護予防・高齢者の社会参加・住民主体の活動を推進支援し、住民が生き生きと暮らせる地域づくり。

【計画の概要】

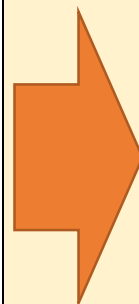
- ・ 高齢者総合相談センターの相談支援の充実については、昨年度に引き続き、センターの役割の周知を図るとともに、関係機関との一層の連携を目指し、出前講座や出張相談の実施、地域住民や関係機関の行事への積極的な参加、個別ケア会議や区役所の相談事業の活用、重層的な支援が必要な世帯については関係機関との連携を図っていく。
- ・ 認知症についての普及啓発・本人発信支援については、昨年度に引き続き、認知症サポーター養成講座の実施・物忘れ相談の周知と実施・出前講座にて認知症健診を含めた周知活動、そして昨年度立ち上げた本人ミーティングの定期開催を実施していく。また、オレンジドクターとの連携も今後も強化していきたい。
- ・ 総合事業の推進については、つながるサロンや短期集中サービス・としま入浴通所サービス・元気はつらつ訪問等の活用をひきつづき促進し、介護予防・重度化防止を図っていく。
- ・ 高齢者の社会参加と住民主体の通いの場の拡大について、社会参加のあとおしとして、元気あとおし事業の活動にもなっているぬいものクラブ・巣鴨アップサイクルプロジェクト・ホット菊食堂の毎月の実施を継続していく。また、圏域内のつながるサロンの訪問、まちづくり検討会議の出席し、住民主体の活動を後押ししていきたい。また、今年度の地区懇談会では、「地域にどのような集まりの場があるか知りたい」「地域の集まりの場につながるにはどうしたらいいか」をテーマに実施する予定で、開催に向けて準備会を行っている。
- ・ 成年後見制度の利用促進については、成年後見制度や備えて安心支援事業はれやか等の制度の周知のために、出前講座を住民向けに実施を予定している。
- ・ 災害 BCP 訓練については、今年度も想定・シナリオを変更して9月に実施する予定。
- ・ 約2年前に建て替えが完了した都営住宅西巣鴨2丁目アパートについて、新しく移り住んできた住民同士のコミュニティがまだできておらず、必要な地域の情報も行き届いていないという課題が見えてきた。2層 SC・CSW と協働し、コミュニティ形成支援や必要な情報がゆきわたるように、住民を対象とした出張講座や相談会・イベントを実施する計画である（「都営西巣鴨アパート応援隊」）。第1回目を6月6日に巣鴨警察の協力のもと、自転車の法改正についての出前講座と住民交流会を実施し18名の参加があった。

令和7年度 実績報告

【 東部地域包括支援センター 】

【令和7年度 実績報告】

- ・高齢者と障害を持つ家族が同居し、家族支援が必要なケースで対応している中、区で主催している福祉包括推進会議（地域ケア会議）に出席し重層的支援を行うための情報共有と連携を図った。
- ・介護予防・総合事業推進として、基本チェックリストを年間で東部包括6件、こまごめ相談室4件実施。短期集中通所型Cへ東部包括17件・こまごめ相談室4件繋げることができた。
- ・東部医療介護事業所学習交流会（通称：ととか）にて区民向け学習交流会を実施。医療・介護事業所と包括が連携し“認知症介護”をテーマに寸劇を行い、医療と介護の理解を深めるために実際専門職がどのように在宅で支援しているかを分かりやすく講義を交えて実施した。
- ・こまごめ相談室の運営について、相談窓口としての機能を円滑に実施するため東部包括とICTを活用し情報共有を図った。また会議についてもビデオ通話を使用し、ケース対応も含め、すぐに協同で支援できるように連携強化を図った。



【実績への自己評価】

○力を入れた点

- ・短期集中通所型Cの利用促進にあたり、出前講座やケアマネジャー勉強会、窓口相談や訪問時にこまめに案内を行い利用に繋げた。
- ・昨年の東部医療介護事業所学習交流会（通称：ととか）で集客が少ないという課題があり、今年後は、区報への掲載や圏域内の“つながるサロン”に包括見守り職員と地域の事業所職員と一緒に訪問し周知を行い、区民42名の参加に繋がった

○目標までに至らなかった点

- ・認知症の地域づくりの一環で一体型支援参加につなげることができなかった。課題として家族と一緒に参加できる方という条件に合う方が開催時期にいないという現状があった。今後も周知を図り、地域の関係機関にも該当する方がいないか情報提供を依頼していく。
- ・認知症初期集中支援について、今年度1件のみで目標4件に届かなかった。理由として、早期に医療・介護に繋げていく支援を優先することが多かった。今後は支援が必要な初期の認知症の方をより細かく分析し利用に繋げていきたい。

令和8年度 事業計画

【 東部地域包括支援センター 】

- ①独居高齢者及び認知症高齢者やその家族に対しての医療・介護・権利擁護等への対応を強化する。
- ②住民主体の通いの場の支援を第2層生活支援コーディネーターと連携し取り組んでいく。
- ③総合事業の利用促進と普及の強化を図る。特にとしま入浴通所サービス・短期集中通所型 C との利用について重点的に取り組む。
- ④民生委員や町会等のインフォーマル機関や医療・介護サービス事業者等との地域の見守りと支えあいの地域づくりに取り組んでいく。

【計画の概要】

- ① 認知症高齢者も以前より相談支援が増えているが、その中でも地域性として独居高齢者への支援が必要な方が増えている現状から、必要な支援に随時繋げると共になるべく早期発見・対応できるよう民生児童委員をはじめ地域の関係機関との連携を強化していく。具体的には高齢者が普段利用している場所である銀行や買い物をしている場所と顔が見える関係性を構築するため包括を知っていただく所から始めていく。今年度も物忘れ相談や認知症初期集中支援チームを引き続き積極的に繋げていく。
- ② 昨年に引き続き、第2層生活支援コーディネーターと積極的に情報共有を図り、サロン立ち上げに拘らず、特に男性の少人数規模での集まりからの支援を含め通いの場の構築後、続けていくための支援を重視し、協同で行っていく。
- ③ 総合事業の利用促進として、高齢者福祉課・総合事業グループにご協力いただき、ケアマネジャー勉強会にて事業説明を実施する。また今年度から新たに開設した菊かおる園のとしま入浴通所サービスを積極的に相談窓口や訪問時の相談や委託先ケアマネジャーにも情報提供を行い、年間10件を目標に必要な方に繋げていく。
- ④ 今年度は地区懇談会にも様々な地域の関係者に参加いただけるよう働きかけを行い、顔が見える関係づくりと見守り支援の拡充を図る。

令和7年度 実績報告

【 中央地域包括支援センター 】

【令和7年度 実績報告】

・2層コーディネーターと連携をして、本人の特技を活かせる通いの場、体操や食事などを通じた交流の場の立ち上げ支援を実施。「あみものひろば」「なないろ食堂」「としまる体操（イケ・サンパーク）」「大学生によるネイル体験会」の4つの活動が開始した。

・中年層や前期高齢者向けの「老いの備え」に関する啓発活動を、終活あんしんセンターと連携をして実施。啓発用チラシを見た関係者から、「老いの備え」という表現では当事者が不快に感じるのではないかと意見があったため、表現方法を見直し、幅広い世代の方に見てもらえるショート動画の作成の検討を開始した。

・年間で4回、元気はつらつ報告会を開催。圏域内の居宅介護支援事業所に参加してもらうことで、自立支援に資するケアマネジメントについて理解を深め、多面的な視点でのアセスメントやアプローチについて学ぶ機会となった。

・高齢者の特技や趣味を生かした社会貢献活動として、イケ・サンパーク5周年イベントにアクティブシニア作品展としてブースを出し、地域包括支援センターや高齢者の活動の周知を幅広い世代に対して行った。また、ストリートキオスクに出店したキッチンタナベ（だれでも食堂主催者）にて、軽食購入者に高齢者の作品をプレゼントするコラボ企画を実施した。

【実績への自己評価】

○力を入れた点

・外出や他者との交流が少ない方、その人に合った活躍につなげたい方を、地域の活動とマッチングができるように、高齢者の特技やニーズの把握、社会資源の情報整理を行った。ニーズに合った活動がない場合には、2層コーディネーターや関係機関と連携をして新しい活動の立ち上げ支援に取り組んだ。

・元気はつらつ報告会に圏域内のケアマネを呼ぶことで、助言者として参加する医療・福祉の専門職の視点を学び、自立支援に資するケアマネジメントを多面的に考える機会とした。参加をしたケアマネからは、専門職の視点が参考になったなどの意見が多く聞かれた。

○目標までに至らなかった点

・上池袋や北大塚3丁目地区に新たな活動場所の確保ができなかった。公共施設や福祉施設も少なく、坂や細い路地の多い住宅地であるため、地域の方に開放できる場所が少ない現状がある。今後も、2層コーディネーターやCSWと連携をして地域の方や関係者からの情報収集を行い、活動場所の候補の開拓を進めていきたい。

令和8年度 事業計画

【 中央地域包括支援センター 】

重点目標 孤立を防ぎ多世代で支え合うまちづくり

～見守り支援、認知症の備え、多様な担い手と当事者が連携できる地域づくりの拠点～

【計画の概要】

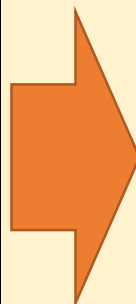
- ・ 支援の対象になる前から、地域や社会資源と関わる機会を持つことで、早い段階で地域の方が困りごとに気づき、相談ができるような地域づくりに取り組む。
 - ① アウトリーチ連絡会参加者から有志を募り、「老いの備え」をポジティブに捉え活躍できるような周知動画を作成する。また、その活動に地域住民にも参加いただき、活動を通じて啓発につなげる。
 - ② ひとり一人にあった地域とのつながりが持てるように、地域の活動や事業所情報などを蓄積して、ニーズ（他者との交流、やってみたい活動への参加、認知症のある方や要介護状態の方の活躍など）と活動をつなぐ支援を行う。同時に、地域や施設等に対しては、参加することがその方の活躍となること、通いの場に来ることで地域とつながることで、孤立防止になるということを伝えていく。
 - ③ 集合住宅の管理組合等との関係の再構築と状況把握を行い、その結果を踏まえて区住宅課との連携をして集合住宅ネットワークの開催を検討する。
 - ④ 子ども、若者向けに「認知症すごろく」の活用や「認知症サポーター養成講座」を通して、認知症について若いうちから知る機会を設ける。また、認知症当事者がボランティアに参加するなどの機会を作る。
- ・ 高齢者の趣味や特技を生かした活動への参加を通じて、社会貢献やその人らしい暮らしができる地域づくりに取り組む。
 - ① アクティブシニア作品展の開催や、リペアカフェの活動支援などを通じて、高齢者の活躍の場を創設する。
 - ② 「文化的処方」のような取組みが高齢者の意欲向上や孤立化防止につながることを、事例を通じて地域住民に周知し共有を図る。

令和7年度 実績報告

【 ふくろうの杜地域包括支援センター 】

【令和7年度 実績報告】

- ・地区懇談会は、つながるサロンのコーディネーターに参加いただき、サロン活動を紹介。サロン活動の実態を知ることができ、対象者を紹介しやすくなった。また、地域の関係機関と顔の見える関係づくりも進んだ。
- ・ケアマネ地区懇談会は、豊島区福祉総務課の防災担当者を講師として、防災をテーマに実施。災害時の区の体制や個別避難計画について説明いただき、各事業所から災害時の体制について意見交換する場を設けた。
- ・出張相談を31回実施。ふくろうフェスや高齢者クラブ、高齢者住宅、つながるサロン、区民ひろばで行い、包括の広報に努めた。
- ・つながるサロン18か所を訪問。事業対象者のいないサロンも訪問し、コーディネーターから聞き取りを行い、情報交換をしている。
- ・個別会議は19回実施。身寄りなく認知症のため、成年後見制度の利用が必要だが、本人の拒否が強くつながりが難しいケースが10件ほどあり。ケアマネ研修では、サポートとしまの方を講師に「身寄りのない方の身元保証について」をテーマに研修会を実施。課題の解決は容易ではないものの、早期に包括に相談していただくよう周知ができた。



【実績への自己評価】

○力を入れた点

- ・人員不足が長期化するなか、役割分担を行いながら業務を遂行し、目標値をほぼ達成することができた。
- ・民生委員の欠員地域に住む75歳独居世帯を積極的に訪問。包括の広報をしながら、困りごとがあれば、相談につながるように努めた。

○目標までに至らなかった点

- ・ケアマネ地区懇談会で、地域の居宅介護支援事業所から、合同で防災訓練をしてほしいと要望があり。実施できなかったため、来年度開催予定。
- ・区の相談3事業は、包括からの事例提出が1回となっており、有効に活用していきたい。

令和8年度 事業計画

【 ふくろうの杜地域包括支援センター 】

重点目標

地域へのアウトリーチを積極的に行い、多様なニーズを把握。関係機関と連携しながら、複合的な問題に対応していく。

【計画の概要】

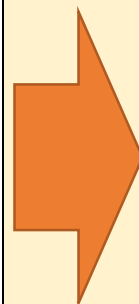
- ・医療職が不在となっていたが、7月に入職が決まったため、人材育成に力を入れていく。メンター制度を活用する。
- ・一人暮らし高齢者が多く、身寄りない方も増えている。家族形態も多様化し、包括が受ける相談も、複合化した課題が多くなっている。各関係機関（地域ケアG、CSW、障害、生活福祉課、保健所等）と連携しながら個別会議を適宜開催。方向性、役割を確認して在宅生活を支援していく。区の相談3事業を有効活用する。
- ・今年度から虐待関係の帳票や管理方法に変更があり。対応の流れも含めて、職員が習得できるように研修を行っていく。
- ・今年度から、見守り通信を発行。見守り支援事業担当の役割や活動内容など情報発信していく。周知活動を地域や関係機関に対して積極的に行い、早期の相談につなげていく。
- ・地域の居宅介護支援事業所等、関係機関に声かけして、区と共に防災訓練を開催する。
- ・認知症に関する地域づくりの一環として、認知症支援講座を開催する。

令和7年度 実績報告

【 豊島区医師会地域包括支援センター 】

【令和7年度 実績報告】

- ・地域住民・CSW・関係機関との連携を強化し各「よりみち」活動や「ラルゴ de ごはん」を通じて、見守りと支え合いのネットワークづくりを推進した。
- ・認知症支援では、認知症初期集中支援チームやもの忘れ相談、アウトリーチ事業を活用し、本人・家族への早期支援や多職種連携による支援体制を強化した。
- ・「すずめるマップ」を作成し、公共施設や地域店舗など19か所のクールスポットを整備することで、高齢者の外出支援と熱中症予防に取り組んだ。
- ・虐待が疑われるケースは、関係機関と情報共有を行いながら、迅速な事実確認と支援調整を実施し、積極的な研修受講や虐待対応マニュアルPTで高齢者虐待対応フロー作成を通じて高齢者虐待防止に取り組む意識づくりを強化した。



【実績への自己評価】

○力を入れた点

- ・毎月、高齢者福祉課、1層&2層コーディネーター、CSW、包括職員で定例会を開催し、連携強化を図ることで多様な取り組みを行い、高齢者の見守り・相談支援体制を充実させた。
- ・「すずめるマップ」や体操イベント、地域住民を講師とした出張講座の開催などを通じて、高齢者の外出機会や地域交流を促進した。

○目標までに至らなかった点

- ・つながるサロンは開催場所の制限もあり、所在地に偏りがある為、サロン利用を希望している利用者がいても通えないケースがあり、圏域内での活動場所が不足していると実感した。
- ・つなげるシートの活用がなかなか進まなかった。コロナ禍において医療機関との連携をスムーズに行うために作成したシートだが、コロナ禍も過ぎ、対面によるカンファレンス開催も可能となってきた為、つなげるシート自体の役割や意義を見直す時期と感じた。

令和8年度 事業計画

【 豊島区医師会地域包括支援センター 】

重点目標

高齢者が安心して健康で自分らしい生活を継続できるような支援を行うと同時に、地域と繋がり支え合えるようなネットワーク作りを行っていく。

【計画の概要】

- ・ 高齢者総合相談センターの相談支援機能を強化し、ICT の活用や地域の多職種との医療・介護連携を通じて、切れ目のない相談体制を整備する。
- ・ 地域住民や関係機関、CSW、医療機関などとのネットワークを強化し、高齢者を地域で支える仕組みづくりを推進する。
- ・ 「よりみち」や地域サロン、体操イベントなどの活用と、新たな活動の場作りを行うことで、高齢者の外出機会・交流機会を増やし、介護予防や閉じこもり防止につなげる。
- ・ 認知症支援や見守り活動、多職種連携を進め、高齢者が安心して住み続けられる地域づくりを目指す。
- ・ 東京都や豊島区等が実施する研修に積極的に参加することで職員の専門性を深め、住民の相談に適切に応えられるように資質向上を図る。

令和7年度 実績報告

【 いけよんの郷地域包括支援センター 】

【令和7年度 実績報告】

・普及啓発・本人発信支援

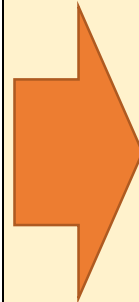
食事をテーマに認知症区民支援講座「知って得！食事から認知症予防」を行った。定員を超える申し込みで定員を増やして実施した。質問や相談も多く、区民に興味をもっていただける内容を提供できた。

・訪問型・通所型サービスの推進

10月から通所型サービスの運用変更があり、地域ケアマネジャー向けに総合事業の研修を実施、また、ケアマネジャー地区懇談会等で総合事業の基本理念や事業内容の周知に努めた。

・いけよん圏域における多職種連携の推進

多職種連携の会「いけよんプロジェクト」事務局運営を担い、毎月のコアミーティングの開催や研修会の企画運営、地域行事の参加など、会員だけでなく、地域の多世代に向けた取り組みを行えた。



【実績への自己評価】

○力を入れた点

・ささえあいの仕組みづくり（地域資源の充実）

一人暮らしの男性等をターゲットに「わがまち講座」として企画をシリーズ化。第1回「歴史講座」、第2回「思い出トーク会」を実施し多くの区民が参加、約半数は男性に参加いただけた。多世代向けでは、銭湯の場所を活用した「風呂端会議」、レンタルスペースを活用した交流の場として「ここ楽サロン」の開催につなげることができた。

○目標までに至らなかった点

・直営プランでの総合事業活用件数は増加したが、委託ケースでの利用は増えなかった。ケアマネジャー地区懇談会やMCSを活用した情報提供や、総合事業等を活用した成功事例を共有する事により委託ケースでも有効に総合事業を活用できるよう取り組んでいく。

令和8年度 事業計画

【 いけよんの郷地域包括支援センター 】

重点目標

- 地域包括ケアシステム実現に向けて、研修を活用し専門職個々のスキルを強化、地域活動の支援や多職種連携を図り、多世代に対して必要な情報の発信
- 高齢者の見守り支援や総合相談の機能を強化し、関係機関と連携を図り問題解決にあたることで、地域からの孤立を防ぎ、社会生活の安心を確保

【計画の概要】

- ・高齢者総合相談センターの相談支援の充実については、複合的課題など複雑化するケースが増加しており、課題解決能力の向上とチームアプローチの強化が必要。各ケースを所内で検討し終結まで進捗状況を確認しながら、丁寧な対応を行っていく。また、高齢者総合相談センターの周知を図り、気軽に相談できる場所として認知してもらうことが必要であり、出前相談の活用や地域のお祭り等で周知を図っていくと共に、相談者への丁寧な対応で地域における信頼を得てきたい
- ・見守り支援事業担当による活動一専門的な見守りについては、地域で様々な生活課題を抱え孤立した高齢者のみならず、ひきこもり等へも対応できる体制を整える必要がある。また、アウトリーチ対象者の増加に伴い名簿の精査が必要な状況であり、見守り職員、包括3職種、介護支援専門員が情報を密に共有し、他機関とも連携し対応していく
- ・訪問型・通所型サービスの推進については、委託ケースでの短期集中型や住民主体サービスにつながる件数が少なく、総合事業が活用しきれていない現状がある。ケアマネジャーへの情報提供や事例を通じて総合事業利用の効果を実感しサービス利用に繋げられる支援を行っていく
- ・普及啓発・本人発信支援については、軽度認知障害や初期認知症の方を早期発見、早期対応が必要な現状であり。もの忘れ相談や認知症初期集中支援事業の活用、認知症サポーター養成講座の開催の他に、令和9年度に実施予定の認知症区民講座の内容を法人職員向けに開催し、意見を集め、より区民に興味を持っていただけるような内容を検討する
- ・ささえあいの仕組みづくり（地域支援の充実）については、令和7年度新たに立ち上げた活動が、住民主体で継続できるように、関係者と定期的に意見交換を行い、進捗状況を確認しながら側面的な支援を行っていく

令和7年度 実績報告

【 アトリエ村地域包括支援センター 】

【令和7年度 実績報告】

①熱中症対策事業の訪問開始日や締切日の前倒しがあったが、期日内に適切に対応することができた。また、民生児童委員の進捗状況に応じて訪問の代行や同行を行い、スムーズな配布につなげることができた。

②5月、11月に開催した「認知症の人と家族の一体的支援プログラム」では、各1組の認知症本人とその家族に参加してもらうことができた。

認知症初期集中支援事業は3件のチーム員介入ができ事例提出を行った。

2月に、西部生活福祉課の職員を対象に認知症サポーター養成講座を開催。14名が参加し、講義のあとグループワークでの意見交換を行った。

③地域のケアマネ向けに「精神障害制度」と「ヤングケアラー」についての研修を実施。

精神障害制度については、障害者の高齢化に伴い介護保険利用へと移行するケースが増えており、参加したケアマネから今後活かしていきたいとの意見があった。

ヤングケアラーについては、実際にケースに遭遇したことがあるCMは少なく、今後遭遇した際にはどのような視点で支援していくかを学んだ。参加したケアマネからつながり先が分かって安心した、当事者が気づいていなくても客観的にみるポイントが分かって良かったなどの意見があった。

【実績への自己評価】

○力を入れた点

①熱中症対策事業の年度実績報告を、民生委員・児童委員を対象に書面で行った。グラフを多用し、視覚的なところでも実績を伝えることができた。

②認知症のある人が地域で安心して生活し続けるため、また家族の介護負担軽減を図るための事業を必要に応じて活用することができた。また区民ひろばやサロンなどを定期的に訪問し、認知症に関する情報提供や情報共有を行うことができた。

○目標までに至らなかった点

①第2層生活支援コーディネーターとの連携が不十分な部分があった。R8年度は新任のコーディネーターに代わるため、CSWやボランティアコーディネーター・民生委員などとも今以上の連携強化を図っていく必要がある。

②委託ケアマネによる短期集中サービスやA8通所介護の利用促進のため、引き続き来年度も周知を行い利用の促進に努めていく必要がある。また、介護予防ケアマネジメントで必要な書類の確認やプランの記載の仕方などを定期的に共有していく必要がある。

令和8年度 事業計画

【 アトリエ村地域包括支援センター 】

重点目標

住み慣れた地域で、その人らしく安心して生活できる地域づくりの支援を行っていく。

【計画の概要】

・生活支援の充実

民生児童委員・CSW・第2層生活支援コーディネーターなど、地域の支援者や支援関係機関との連携強化を図る。
高齢者の集いの場へ訪問し、当センターや見守り支援事業担当について地域住民へ周知していく。

・自分らしく安心して暮らせる地域づくり

認知症の本人だけでなく家族の負担も軽減できるように、相談内容によって認知症初期集中支援チームなど認知症施策の提案を行う。
早期のうちに認知症の人や家族と関わるができるよう、総合相談だけでなく、ケアマネジメント業務時にも留意して認知症関連の情報提供をする。

・高齢者総合相談センターの機能強化

高齢者に多い問題や高齢者自身が知りたいこと・学びたいことをテーマに地区懇談会を開催する。
個別会議を適宜開催し、ケースの解決を図るとともに地域課題について関係者間で情報共有する。

・介護予防・健康づくりの推進

圏域内に11件あるつながるサロンを訪問し活動内容を把握し連携を図っていく。また、窓口相談時などにサロン活動の情報提供を行い、身近な活動の場としての周知につなげていく。
第2層生活支援コーディネーターとの定例会に参加し連携強化を図るとともに、活動の場など社会資源の情報共有を行う。

令和7年度 実績報告

【 西部地域包括支援センター 】

【令和7年度 実績報告】

○普及啓発・本人発信支援

・認知症の普及啓発として、「認知症サポーター養成講座」を7回開催した。3年間学童向けに開催し、圏域内全ての子どもスキップで行うことが出来た。

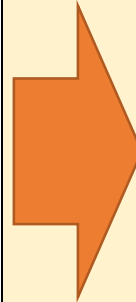
・本人ミーティングを「ミーティングルーム」という名称で月1回開催し、定期的に4～6名の方が参加されている。ミーティングの中では回想法を実施、また日頃の生活で困りごとなどを参加者で話し合っている。

・西側地域にて「わくわくオレンジプロジェクト（認知症の人と家族の一体的支援プログラム）」を2回開催した。小学校の農園作業（大根やラディッシュ等の収穫や草取り）、区民ひろばでは絵手紙や編み物などの手作業を行った。



○地域ケア会議による地域包括ケアシステムの推進

・地区懇談会の開催（3回）。特にアウトリーチ連絡会では、「『独居高齢者』『同居高齢者』それぞれの課題について考える」をテーマとし、GWを通して新任の民生委員さんとの繋がりも出来た。



【実績への自己評価】

○力を入れた点

・認知症の地域づくり推進（実績26回）

「本人ミーティング」「介護者の会」「認知症の人と家族の一体的支援プログラム」を開催した。窓口相談などで情報提供し、必要に応じて認知症に関する支援につなげた。

・第2層生活支援コーディネーターとの連携

定例会で情報共有することで地域と交流のない気になる高齢者について同行訪問し、居場所などに繋げた。また「合唱サロン」など新しい居場所づくりについても後方支援を行った。

○目標までに至らなかった点

・相談3事業（実績5回）

地域ケア個別ケア会議（17回開催）、三職種ミーティング（月2回）行い、情報共有と支援方針について確認した。支援対応が複雑・長期化していることが多いため、都度の支援方針を確認することが有効であったため、相談3事業の実績回数が今年度の目標より下回った。

・つながるサロン訪問（実績4回）

つながるサロン（通所B）モニタリング訪問は4回行い、サロンコーディネーターと情報共有した。他圏域のつながるサロンへ訪問して情報収集し、窓口相談時に情報提供できるように備えた（5回）。

令和8年度 事業計画

【 西部地域包括支援センター 】

重点目標

- ・地域住民が積極的にフレイル予防などに取り組み、自らの健康を維持していけるような環境づくりを行う。
- ・関係機関等と協働し、各職種の対応力、アセスメント力を強化し、認知症になってもその人らしい生活が送れるよう、支援する。
- ・個人情報保護に関する取り組みの継続と業務の効率化を図る。

【計画の概要】

○自分らしく安心して暮らせる地域づくり

- ・認知症になっても暮らしやすい地域づくりを進めるため、認知症についての啓蒙活動（認知症サポーター養成講座、認知症支援講座）を行う。
- ・認知症本人やご家族が孤立しない関係づくりを図るため、本人ミーティングの運営、「認知症本人と家族の一体的支援プログラム」の参画、「介護者の会」の後方支援を行う。

○高齢者総合相談センターの機能強化

- ・地域ケア会議（地区懇談会、アウトリーチ連絡会、ケアマネ地区懇談会、元気はつらつ報告会）を開催し、地域課題について課題抽出する。
- ・困難ケースや重層的支援が必要なケースに対し、地域ケア個別会議、相談3事業などを活用し、早期に関係機関と連携を図る。必要に応じて、認知症関連の事業（物忘れ相談、認知症初期集中支援事業）へ繋ぎ、複合的な課題に対応する。

（参考）缶バッジ作り

～わくわくオレンジプロジェクトより～

